

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名： 瑞浪市地域公共交通協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間・整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A B C 評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A B C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかつた場合には、理由等を分析上の上記載】	【事業の今後の改善点及び適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション株式会社	日吉=明世ルート	・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行うと共に、区長会にてデマンド交通の制度説明及び利用促進のPRを行った。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握した。 ・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市とともに補助金を交付した。 ・デマンド交通の出張乗り方教室を計画し、市ホームページ及び区長会にて周知を行ったが反応が無かつたため、対象者を高齢者に絞り、地元の長寿会へ周知を行った。その結果、2つの会より申込みがあり、一定の効果を得られた。P6.11月と12月に教室を開催し、参加者には無料券を配布し、利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は実施された。	C 1日の稼働便数は6便中1.77便、利用人数は2,52人で、目標値(1日2.5便、利用人数4,2人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかつた。理由としては、コロナ禍の影響により家族の送迎等別の交通手段による生活様式ができあがってしまったため、以前の様な高い稼働率に回復するには時間を要している。唯一新規登録者数は増えているが、実際の利用につながっていない。ニーズや利用実態に即した運行内容への見直しが必要である。	・稼働便数等について、計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るために、引き続き制度周知に努める。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。 ・引き続き区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。
平和コーポレーション株式会社	大湫=日吉東部ルート	・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行うと共に、区長会にてデマンド交通の制度説明及び利用促進のPRを行った。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握した。 ・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市とともに補助金を交付した。 ・デマンド交通の出張乗り方教室を計画し、市ホームページ及び区長会にて周知を行った。	A	計画どおり事業は実施された。	C 1日の稼働便数は6便中1.09便、利用人数は1,50人で、目標値(1日1.4便、利用人数2,8人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかつた。近年、新規での登録者が少なく、コロナ禍以降は利用者が減り続けている。現在は、固定の利用者が定期的に利用しているのみに留まっており、乗り方教室の利用申込みもなく、新規利用者の開拓が困難な状況である。より地域に適した交通手段の検討が必要である。	・稼働便数等について、計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るために、引き続き制度周知に努める。 ・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。 ・地区的取組みとしては、大湫町の広報紙にデマンド交通の利用状況と利用を呼び掛ける記事を掲載している。 ・引き続き区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。
平和コーポレーション株式会社	釜戸ルート	・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行った。 ・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握した。 ・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市とともに補助金を交付した。 ・デマンド交通の出張乗り方教室を計画し、市ホームページ及び区長会にて周知を行った。	A	計画どおり事業は実施された。	C 1日の稼働便数は6便中1.84便、利用人数は2,87人で、目標値(1日2.5便、利用人数5人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかつた。また、昨年度までは唯一コロナ禍以前の稼働便数及び利用人数より増加していたが、今年度より減少している。要因としては、ヘビーユーザーの利用が無くなつたためである。固定の利用者に依存した利用実績であったため、今後は新規利用者の開拓が必要である。	・稼働便数等について、計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るために、引き続き制度周知に努める。 ・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。 ・新規利用者の開拓を図るため、区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。

資料2

令和7年1月29日

令和6年度第4回瑞浪市地域公共交通協議会

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	瑞浪市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市の公共交通の構築にあたっては、次の方針で取り組んでいる。</p> <p>(1)交通空白地域の解消 昼間の買い物や通院目的で利用できるコミュニティバスが通っていない地域を極力解消する。</p> <p>(2)公共交通ネットワークの構築 市の公共交通ネットワークを一体的にとらえ、維持、活性化させる観点から、各公共交通の連携を強化する。</p> <p>(3)サービス水準の維持、向上 地域ごとに、各公共交通のサービス水準をできるだけ維持することとする。 デマンド交通の運行(対象事業)は交通空白地域を解消し、地域間公共交通を補完する目的がある。</p>